

♪ シニア便り ♪

第19回定期演奏会を終えて

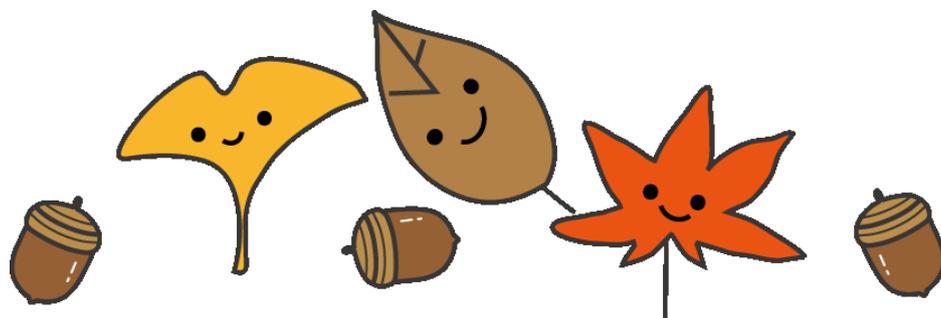
副団長・常任指揮者 中村 暁生
第19回定期演奏会実行委員 伊藤 英明

北海道シニア吹奏楽団第十九回定期演奏会に出演して

札幌市立しらかば台小学校吹奏楽部・指揮者 郷 健志

一筆吹奏（新入団員のごあいさつ）

ユーフォニアム 明正 良一
サクソ 宇田 裕美
フルート 立見 麻以子



第22号（2012年11月発行）

発行 北海道シニア吹奏楽団・事務局
編集 シニア便り・編集部

第十九回定期演奏会を終えて

副団長・常任指揮者

中村 暁生

第十九回定期演奏会は実行委員会、事務局をはじめ全ての団員の皆様のご努力とご協力により、盛況裡に無事終了したことに心からお礼申し上げます。

今年はメンバーも増え、楽器編成も理想とする形に近くなり、団全体としての演奏力も着実に向上して、いわゆる吹奏楽のグレードで言えば5+まで来ていると評価できます。

団設立の主旨を一貫して忘れることなく、大人の集団としての落ち着いた楽しい雰囲気を充分お客様に伝えられたものと確信しています。

お客様のアンケートで最も高い評価を受けたのは「ウエスト・サイド・ストーリー」でしたが、新しい感覚に満ちたこの曲を本番ではノリノリの演奏になった

ことから当然と思いますが、十八世紀の作品で吹奏楽ではあまり演奏されることのない「王宮の花火の音楽」が多くの方から支持されたのは少し意外でした。

この時代の音楽は和音も、転調の方法やリズムの変化も少なく、曲の終わり方も画一的で、現代の人にとっては退屈に感じられる音楽と思われがちですが、それが返って新鮮に受け止められたことは、楽器編成と演奏力を勘案して選曲した実行委員会の大ヒットであったと思います。「口笛吹きと犬」「イパネマの娘」などのソロも好評でした。

さて、来年は創立二十周年という節目になります。既に実行委員会では準備を始めていますが、今後の演奏上の課題として私が挙げたいのは、ピッチと音形処理に一層の緻密さと、ダイナミックスの幅の拡大が必要であり、本来持っている暖かなサウンドにクリアさが加わればと思っています。来年に向けてまた、皆様と一緒に

に一歩ずつ進んで行きたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

第十九回定期演奏会を終えて

第十九回定期演奏会実行委員

伊藤 英明

北海道シニア吹奏楽団・第十九回定期演奏会は、団員の皆様のご協力によって、成功裡に終了することができました。

開演前のバタバタした中で舞台から客席を覗いてお客さんの入りを確認することはできませんでしたが、開演の二ベルが鳴って舞台上足を踏み入れた時、大勢のお客さままで客席がほぼ埋め尽くされていることに、まずはホッとしました。「安堵感」、そして終演の「時計台の鐘」を演奏し終わった時には「終わった〜!」という「達成感」で胸が高鳴りました。さて、今年の定期演奏会では、

いくつかの新たな取り組みをさせて頂きました。

試奏について

試奏は、定期演奏会の演奏曲を選ぶことが第一の目的ではありませんが、吹奏楽の多様な魅力を皆さんに少しでも感じてもらえたいとの思いもあり、大変多くの曲の試奏をお願いしてしまいました。

試奏は第十八回定演の翌週から始まり今年二月十九日まで、途中に「シルバーハイツ・ロビー・コンサート」を挟んでいますので、九回の練習日に計二十六曲の試奏となりました。一回の練習日に平均三曲の試奏を行ったことになりました。この間、試奏曲の多さに悲鳴を上げていた方もおられました。定演奏曲としてはシニアらしいクラシック曲から思いついた深いポップス曲まで多彩に選曲ができたのではと思っています。団員の皆さまに感謝いたします。

チラシ（ビラ）配付について

「お客さまアンケート」は百三十二枚を回収することができました。まだ、集計は済んでいませんがザッと見て驚いたことは「始めて来場」して下さったお客さまが何と五十六名とほぼ半数に近いことです。この方々の来場のきっかけは、かなりの方が「知人・友人の紹介」となっていました。これを勝手に解釈させて頂くと、今年新たな取り組みを行った効果ではと感じております。

それは、チラシを一か所当たり三十枚程の小分けにして多数の施設に置いて貰ったことです。

具体的には、演奏会の後援に「札幌市」が入っていただければチラシを快く預かって頂ける市内三十六か所の「地区センター」「図書館」に置いてもらったことです。昨年の、楽器店や演奏会場（ホール）、区役所、区民センターの四十か所と合わせて七十六か所に「チラシ」を置いてもらいました。このチラシを手にした人達が

「知人・友人」を誘って来てくれたのではと思っております。

舞台配置について

今年の演奏会の出演者数はエキストラを含めて五十七名と過去最多となり、従来の舞台配置では入りきらないとの判断からステイジマネージャーをお願いした三浦氏の提案もあり、次の対応を取らせて頂きました。

まず、緞帳（どんちよう）の昇降を止めて舞台の前後を少しでも広くし、山台を三段にしてパーカッションを後列に配して左右を広くしました。これにより舞台全体にバランス良く楽器を配置することができました。お客さまアンケートには「舞台が窮屈そうなので、もう少し広い会場で演奏されては如何でしょうか？」との声もありましたが、「かである・ホール」はシニアの身の丈に合ったホールだと思っておりますし、演奏の録音を聞いてみると管・打の音量バランスが従来よりもかなり

良くなっているのではとも感じました。

なお、緞帳の昇降が無くなったことで、椅子や譜面台の配置替えの様子が客席から全て見えてしまつたため、少しでもスマートに素早く舞台を転換しなければというところで、少人数の団員に最初から終わりまで通してステイジスタッフをお願いしました。担当された皆さんには大変ご苦労をおかけしましたが、これも盲く行つたのではと感じております。

セミナーセンターに練習場を移してから二度目の定期演奏会になりましたが、今年は練習が佳境に入る九月以降は通常の練習時間が確保できなかったことから、リフレ・サッポロに練習場を移すことが多く、交通機関の不便さも有つてどの程度まで団員に集まって頂けるのか心配もありました。しかし、九月以降の全ての練習に四十名を超える方々に集まって頂き、皆さんの演奏会に

向けた意気込みには感動すら覚ええました。

また、団員の皆さんへの決まり事の周知について、職場であれば物事を決定して皆さんに周知するのに二〜三日もあれば十分のことでも、一か月に二度しか顔を会わさないシニアでは一〜二か月かかってしまうのでは……と考え、とにかく早め早めに話を進めることに心がけましたが、逆に早すぎて盲く伝わらないこともあり、皆さんへの周知のタイミングの難しさを痛感しました。色々と反省点ばかりが脳裏を過ぎりますが、兎にも角にも第十九回定期演奏会を成功裡に終えることが出来ました。これも団員の皆さんの叱咤激励やご協力が有ればこそ成し遂げることができたのだと思っております。最後に、この一年間にお世話になりました団員の皆さまにお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

定期演奏会に出演して

札幌市立しらかば台小学校

吹奏楽部・指揮者

郷 健志

まず、この度は定期演奏会に出演させて頂けるといふ、素晴らしい機会を与えていただきましてありがとうございます。部員一同心より感謝いたします。

シニア吹奏楽団とのジョイント演奏の話をお願いしたのは、もう六か月前のことになります。本校では初めての取組みということもあり、管理職や保護者会と色々な話し合いをしながら、シニア吹奏楽団の皆さんを交えた初めての練習日を迎えました。

初回練習の時の子供たちは、コンケールの舞台袖以上の（！？）緊張感に包まれていました。もともと人見知りの子に至っては、反応すらできない様子。いったいどうなることかと思っていました。翌日に感想を聞くと、「教えて

もらって嬉しかった！」「すっごい大きな音でびっくりした！」と子どもたちは満面の笑みで話していました。子どもたちが上達する上で「良い音を生で聴くこと」「良い音を聴きながら一緒に音を出すこと」はとても大切なことです。しかしながら、本校の子どもたちがそうした機会に巡り会うことは残念ながらほとんどありません。そういったことから、子どもたちにとって緊張と共に幸せな時間を過ごせたのだと思います。シニアの皆様は何度も足を運んでいただき、特別レッスンを受ける度、子どもたちの変化を感じる事ができました。

そんな素敵な時間を積み重ねながら迎えた本番。「教えて頂いたことへの感謝の気持ち音を代表そう！」というスローガンのもと、「かでの2・7」に向かいました。Kitaroとは一味違うホルンの様子に、子どもたちはなかなか緊張していたようです。

リハーサル室でチューニング

をした後、舞台袖で「緊張する」。とつぶやいていた、ある四年生。反響板の隙間やモニターで客席を覗き、「お客さんがたくさんいる！」と喜んでいた六年生。演奏前も演奏中も、みんな真剣でとてもよい表情をしていました。

翌日の反省会の中では、一緒に吹くことができたことで安心して吹けた（ト）、「わからないリズムを直前に教えてもらえて本当に良かった！（A.Saxの男子）」「教えてもらったグリッサンド＆ハイトーンを出せて良かった！（Echoの二人）」など、満足感と充実感を味わい、自分の成長を感じる事ができたようです。本当にありがとうございました。最後となりましたが、シニア吹奏楽団の今後ますますのご発展をお祈りして、感謝の言葉といたします。

一筆吹奏

新入団員からのあいさつ

「入団一年を振り返って」

ユーフォニアム 明正良一

初めての定期演奏会出場を終えて、振り返るとこの一年が実に早く過ぎ去った感じがします。つまり、まずきながらも何とか最初の壁を越えることが出来て、いまほっと一息付いているところでしょうか。この間ご支援下さいました皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

自分にはまだ多くの課題が残っていて、今後どこまで克服できるかは判りませんが、少しでも上達出来ればとの思いで日々の練習に励んでいるところです。

さて、遅く成りましたが自己紹介をさせて頂きます。私こと、明正良一（みょうしょうりょういち）は六十三歳、西区在住です。通信関連企業に技術者として四



十年間勤務し、現在は嘱託パートの仕事をして残すところ一年余り、己に鞭打って奮闘しています。身体的には視力の低下等々衰えは否めませんが、ユーフォを続ける為の健康管理には十分に気を使っているつもりです。

また趣味嗜好については年齢や環境と共に変わりつつありますが、基本的には音楽ですね、吹奏楽については中高生の若かりし頃に経験して以来です。また時のフォークソングブームに乗ってギターを少々かじり、その後は仕事一筋で楽器とは疎遠になり、もっぱら聞く側に回ってクラシック、ジャズ等を楽しんで来ましたが、心の片隅には音楽活動への憧れが有ったことは事実ですね。他には心肺機能維持の為に一日五千歩を目標に近隣の公園や遊歩道を散歩し、たまにはボーリング場に出向くなど筋力維持にも心掛けています。

さて、肝心の嗜好ですが、飲酒はビールならコップ二杯ぐらい、

後はウイスキー、シングルの水割り又はお湯割をちびりちびり、何とも情けない話ですが本当です。

また、親睦の要である月例会については仕事の都合により殆ど出席出来ないのが現状ですが、何卒ご理解下さい。最後に皆様のご健康と当楽団の更なる発展を祈念し末文と致します。



新入団員からのごあいさつ

サククス 宇田 裕美

昨年の八月頃から練習を見学させてもらい、あつという間に一年と三ヶ月位が経ちました。高校の頃には人数の関係で開催することさえかなわなかった定期演奏会というものに参加が出来、すごくいい経験をさせていただきました。

自分の高校の頃の話を少ししよつと思えます。本当は中学校の時から興味はあったのですが、い

ろいろあつて高校から吹奏楽部を経験しました。

最初はやっぱりクラリネットをやりたい気持ち強かったのですが、顧問の先生に「サククスやってみないかい？」と言われ、それがテナーサククスとの初めての出会いになりました。

毎日放課後に吹くたびに魅力を感じ、高校卒業をする頃にはまだまだ吹いていたという気持ちしかありませんでした。あの時にサククスと自分を会わせてくれた先生には今でも感謝しています。

部活自体も全体で二十人にも満たない人数でしたが、毎日充実していたなあと思います。

高校を卒業して、専門学校に通い、就職も決まって家から出ることになって、仕事を始めてもいつかはまたサククスを吹きたいという気持ちは消えることはありませんでした。

縁あってこちらの団体と接点を持つことが出来て大変感謝し

ています。

たった三年間のこと・・・されど三年間。毎日日々放課後の練習はきついものもありましたが、それを経て今の自分があるのかと思つとやっててよかつたなあと思います。

今でも顧問の先生とは連絡取ったりしてるので、縁って本当に大事だなあと心から思います。

また再開した道ですが、今度は三年とは言わず自分の体が持つまでやっていくつもりです。

今はバリトンになりましたが低音の良さに惹かれてこのままバリトンでやっていこうと思つています。改めまして今後ともよろしく願います。



新入団員からのごあいさつ

フルート 立見 麻以子

幼稚園の時に親に言われてピアノを習いに行きました。

理由は覚えていないのですが、習い始めから通うのがイヤでイヤで(今はきちんとやっておけばよかったです後悔してませんが)すぐに「辞めたい…」と。

その時の先生がフルートも教えていて、ピアノを辞めてフルートにしてみるかい? と言われ、ピアノを辞めたかった私は、何かなんだかわからずフルートを始めました。でもまだ幼稚園、フルートは買ってもらったものの吹くことはなく、毎週ソプラノリコーダーの練習です。

小学生になって本格的にフルートを吹くことのないまま、引越して、フルート(リコーダー)だったのですが)も辞めることに…。引越した先の小学校にはブラバンド同好会があり、なんとなくフルートを希望し…。それがフルートとの出会いです。

中学生になり所属した吹奏楽部は、とても厳しい部活だったのですが、年間三十回以上のイベントでの演奏、コンクールでの全道

大会出場、自衛隊の音楽隊での合宿：

とても充実した三年間で、いまでも吹奏楽が大好きなのは、この三年間があったからだと思っています。

今回編集部の方より自己紹介の文章を依頼され、久しぶりに楽器との出会いを思い出してみました。ピッコロとの出会いもあるのですが、長くなるのでまたいつかの機会に…

技術も知識も何も無いのですが、周りの方に教えてもらいながら、とにかくずっと楽しく吹奏楽を続けてきました。

京都で手相を見てもらったら「男の手相」と言われ、よく当たるという人に前世を見てもらったら「軍人」と言われ、少年マンガ、ゲーム大好きで、料理、掃除嫌い…。今は女子力高める訓練をしているところです。

子供連れで練習に行くこともあります。皆さんに迷惑を掛けることもあるかもしれませんが、よ

ろしくお願いいたします。

こんな私ですがこれから仲良くしていただけると嬉しいですよ。よろしくお願いいたします。

編集余録

一年の集大成である定演が無事に終える事が出来、皆さんもホツとされている事と思います。個人的には子育て支援の立ち上げに皆様のご理解を頂き感謝しております。(まだまだ未成熟制度ですが皆様のご理解と見守って頂く姿に学ぶ事が多かったように思います。)来年はクラパートが二十周年を担当。祝賀会の趣向も検討中です。また無理なお願いをするかもしれませんが二十周年成功に向け、ご協力お願いいたします。(石田)

定期演奏会も無事に終わり、ま

たこれから始まりですね。私にとっては、小学生との合同演奏で初めて木管パートがある学校でしたので、とても緊張しましたが、今までと違ったまた特別な思い出ができました。

また、毎年周りの方々に助けられて感謝しています。私は演奏以外の面でみなさんをサポートしていけるよう努めてまいりたいと思っています。(長土居)

皆さん、定演お疲れ様でした。今年、ホルンパートは実行委員であり、アンサンブルもやるという大変なものでしたが、なんとか無事に終えることができました。ありがとうございます。委員活動を通して、一度の演奏会を行う為には本当に様々な仕事があることを知ることができました。慣れない委員活動に戸惑っている私にアドバイスやお手伝いくださいました。皆さんありがとうございました。(池内)